



日仏のコスメ連携が深化

佐賀県

佐賀県北西部の唐津地区で進む化粧品産業の集積計画「唐津コスメティック構想」。実行組織であるジャパン・コスメティックセンター(JCC)は2013年11月に発足。15年4月で設立3年度目に入る。

この3月16日から17日にかけては、JCC会員が渡仏して現地の化粧品集積地「コスメティックバレー」の協会会員と商談交流を行う予定。泉哲哉JCCプロジェクトマネージャーは「団体同士のパートナーとしての関係になってきた」と実感しており、日仏両国の会員企業の関係が深化している。14年11月にはコスメバレー協会のマーク・アントワヌ・ジャメ会長が来日。連携協定を結ぶ唐津市を表敬訪問し、日本企業と取引を希望する仏企業約30社のリストを提示した。今回のフランスでの交流会はそれに応えたもの。両会員企業の製品やサービスをマッチングし、より実践的な連携へ歩を進めたいと考えた。

JCC事務局には唐津市、佐賀県、玄海町が参画している。この1月に知事に就任した山口祥義佐賀県知事は「唐津とコスメという唐突感が面白い。良いものが集積し、知恵が集えば必ず人が集まる」とみる。また「地域振興である」と産業の世界である」と、人の交わりが多く生まれるほど街が栄える」と、地域活性化に期待を寄せている。

九州7県

地域振興アラカルト

西部特集 地方創生九州 2015

九州は一つの大きな島としてまとまりを持って捉えられることがある。一方で各県の特徴が際立ち、多様な顔をみせる地域でもある。地域活性化においても同様で、各地の文化や地域資源をもとにしたユニークな取り組みが行われている。ここでは九州7県の地域性が形になった活性化策を紹介する。

二つの世界遺産候補で観光盛り上げ

長崎県



長崎は2016年にかけて二つの「世界遺産」で盛り上がりを見せようとしている。まず一つ目が「明治日本の産業革命遺産」。九州・山口地域を中心に11サイト・23構成遺産で成り立つ。長崎はそのうち最多の3サイト・8構成遺産を抱える。

中でも三菱重工業長崎造船所(長崎市)の現役設備「ジャイアントカンチレバークレーン」(第三船渠)は、目玉の一つである稼働遺産。日本が近代化に突き進んだ時代の空気と、現在も地域に根付く産業の息吹を感じられる。ユネスコによる6月の正式登録を待つ。

さらに次の正式登録を目指すのが、長崎の教会群とキリスト教関連遺産。教会や集落など熊本を含む14の遺産で構成する。もとは07年に世界遺産「暫定リスト」に登録され、長崎県は世界遺産化を狙っていた。「産業革命遺産」に先を譲る形になったが、歴史的出来事とされる「信徒発見」から15年に150周年を迎えて、満を持して正式登録に臨む。この1月の閣議了承を経て正式推薦された。県では15年度当初予算に登録推進事業費1億3471万円を計上。15年2月補正予算に海外での啓発活動を通じて関係者の理解を深める事業費6300万円を計上した。このほか15年度は過去最大規模のクルーズ船が寄港予定。長崎では観光による地域振興の追い風が吹いている。

戦略特区で雇用・創業促進

福岡県



福岡では、ビルの建て替えを促して雇用創出につなげる「天神ビッグバン」事業に福岡市が乗り出した。国家戦略特区の規制緩和を生かした取り組みの一環。航空法による建物の高さ制限を緩和。今後10年で30棟の建て替えを目指す。10年間の建設投資効果は2900億円。建て替え完了後の経済波及効果は年間8500億円を見込む。

同事業の対象地域は、福岡市中央区の天神地区の約80%。計画では、ビルの延べ床面積は現在の1.7倍の75万7000平方メートルになり、雇用者数は2.4倍の9万7100人となる。

市は規制緩和以外に、建物の容積率に対する特別や立地交付金などを含めた提案を企業に行い、投資を誘致する。起業に関するワンストップ相談窓口で、交流拠点でもある「スタートアップカフェ」の機能強化にも取り組む。また、地下鉄の延伸や交通渋滞緩和に向けた駐車場の集約化で都市機能の強化を図る。

福岡市は2014年3月、政府の国家戦略特区でベンチャー創業を後押しする雇用特区に選ばれて「グローバル創業・雇用創出特区」を展開している。雇用条件などに関する規制改革で内外から起業家や企業を呼び込み、創業や新事業創出を促すのが狙い。国際会議や展示会など、いわゆるMICE(マイス)の誘致とビジネスマッチングの融合も目指す。

県南の1次産業を活性化

熊本県



熊本県は、県南地域の活性化を食品関連産業の振興によって進める。2013年3月には、産業集積「フードバレー」の形成を目指す構想「くまもと県南フードバレー構想」を策定。研究開発機関や企業の集積に取り組み始めた。同年7月には自治体や農協、商工団体、関連業者で構成する「くまもと県南フードバレー推進協議会」が発足した。

構想の対象は食品そのものに限らない。イグサや花、木材などの1次産品とその加工品、医薬品や化粧品を含む、食品の加工や包装、検査の機械も入る。技術支援では熊本県産業技術センターが大きな役割を果たす。センターでは企画や電子・電気、機械、金属、材料の担当者も「食」の分野との連携が視野にある。

県が進める県南振興との連携に力を入れる八代市では、フードバレー構想に関する取り組みが特に進んでいる。同市は構想を政策に生かすための基本戦略を決定。農林水産部にフードバレー推進課を設置した。

同市にはトマトやイグサ、メロン、シウワガなどの特産品があり、6次産業化や農商工連携を進めることで、付加価値を高めようとしている。市内の食品メーカーである蒲公英(タボ)は、トマト加工品の開発に注力。乳酸菌を配合したトマトをベースに調味料などの製品化に取り組んでいる。

県産食材でハラル食品振興

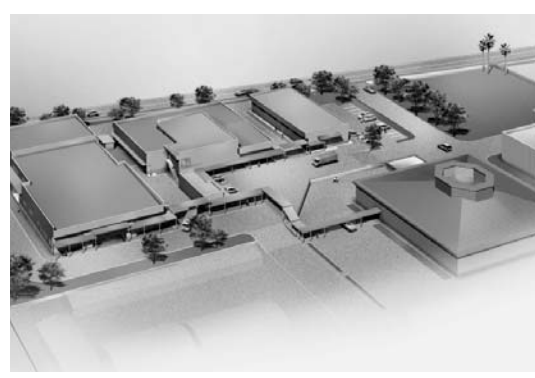
大分県



大分県は農水産業とその加工業など食関連産業を戦略分野に位置付け、成長産業に育成する取り組みを加速させている。2014年2月、県内食品加工業を中心とした産学官で「おおいた食品産業企業会」を設立した。食品加工業者が抱える課題を解決し、地域資源を活用した高付加価値商品の販路を開拓。さらに食品原材料の供給地域から、九州の加工拠点へと転換を目指すという。おおいた食品産業企業会の会員数は約86社・団体(15年1月時点)。大分県産食料技術センター内に設置した「おおいた食品イノベーション」を拠点に、新製品の開発、試作や技術人材を育成、イスラム教の戒律に従って製造したことを証明する「ハラル食品の開発などに取り組んでいる。現在、世界の人口の33%はイスラム教徒。うち6割がアジア圏だ。昨年は別府市内の立命館アジア太平洋大学(APU)、別府モスクと連携、ハラル食品への理解を深める講座を実施した。この中でハラル認証に必要な鶏肉は確保し、「魚、野菜もほぼ問題ない」と同企業会という。今後はAPUなど県内の関係機関・団体と連携を強化、オール大分でハラル食品を開発、取引拡大を行う協議会を立ち上げる。これによりハラル食品を戦略的に観光や輸出品などに加えることで、大分の魅力在国内外に発信していく考えだ。

市場ニーズ捉えた食品開発

鹿児島県



鹿児島県は、地場食品関連産業の振興に力を入れている。市場ニーズに合わせた企画や開発を行う「マーケティング戦略」を推進。食品加工の高品質化、技術革新に取り組む。農商工連携や6次産業化を促進し、企業誘致にもつなげる。2015年4月には食品関連技術の開発を支援する「大隅加工技術研究センター」が完成する。広さは1.3倍。鹿児島県鹿屋市の「鹿児島県農業開発総合センター大隅支場」敷地内に開設する。同センターは「加工ライン実験施設」と「加工開発実験施設」で構成するテストプラント。「流通技術実証施設」「企画・支援施設」からなる。延べ床面積は4957平方メートル。

加工ライン施設はベースト、水煮、冷凍、カット、乾燥、粉末、フレークの製作が可能。加工開発施設では試験販売できる試作品を作れる。流通技術実証施設は長距離輸送に対応した品質保持や長期保存をテーマに研究する。企画・支援施設には相談窓口を開設。マーケティングを支援する。

鹿児島県は全国有数の食料供給基地で、農業生産額、漁業生産額ともに全国トップクラス。食品関連産業は、県産全製造業の製品出荷額等に占める割合が5割超の主要産業となっている。県は農林水産業と食品加工業、試験研究機関が有機的に連携する「食の産業クラスター」形成を目指す。

フードビジネスが加速

宮崎県



宮崎県は宮崎牛など豊かな農林水産資源を武器に、食を通じた産業競争力の強化と雇用創出に向けた産業振興施策「みやざきフードビジネス振興構想」を2013年に策定した。以来、産学官のオール宮崎でフードビジネスの推進体制を構築。6次産業化の認定件数が全国トップクラスになるなど、意欲的な事業者の挑戦が増えている。河野俊嗣知事は「13年は助走。今後は構想を加速させる」と意気込む。

フードビジネスへの機運の高まりは、宮崎市内に設置した相談窓口「みやざきフードビジネス相談ステーション」の拡充からもうかがえる。14年7月に相談室を増床。アドバイザーを増員して機能強化した。商品づくりの加速とともに、今後の販路開拓支援に期待が寄せられる。

特に13年に発売された県産キャビア「宮崎キャビア1983」は県内外で大きな話題を呼んだ。このほかマーケティングの視点から開発した県産ゴボウの揚げ菓子「ゴボチ」など、ヒット商品が続々生まれている。

一方、食品加工業者の技術支援では14年、宮崎県食品開発センター内に「フード・オブ・ラボ」が開所した。テストマーケティングのための試作品づくりができる。さらに事業者の成長段階に応じた人材育成プログラム「フードビジネスアカデミー」もスタートした。まさに県内は、かつてないフードビジネスの熱気に包まれている。

一枚板製品その他、
ご希望に合わせた別注も
承っております。

青山プレミアム
ギャラリー
東京都港区南青山2-27-20
CGAビル 1F・2F
TEL03-6721-1396

新宿ギャラリー
東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー
リビングデザインセンターOZONE 5F
TEL03-3344-3551

横浜ギャラリー
神奈川県横浜市中区本町1-4
プライムメゾン横浜日本大通り 1F
TEL045-305-6691

大阪ギャラリー
大阪府中央区本町橋2-14
KDXレジデンス本町橋 2F
TEL06-6948-5216

神戸ギャラリー
兵庫県神戸市東灘区向洋町中6-9
神戸ファッションビル 1F
TEL078-891-3481

博多ギャラリー
福岡県福岡市博多区住吉2-1-1
パークアクシス博多
TEL092-283-3126

天神ギャラリー
福岡県中央区今泉1-2-30
天神プレイスイースト 1F
TEL03-6721-1396

大川ギャラリー
福岡県大川市幅保172-3
大川デザインミュージアム内
TEL0944-88-0108

©アトリエ木馬のWEBサイトはこちらです [アトリエ木馬](http://www.sekikagu.co.jp)

髭関家具 〒831-0033 福岡県大川市幅保201-1
<http://www.sekikagu.co.jp>

銘木と暮らす。